

## マミジロ *Zoothera sibirica* (Pallas)

### 【選定理由】

県内における繁殖期の主な生息地として段戸裏谷、面の木峠、茶臼山が知られていたが、2009年以降は全ての地域から繁殖期の生息記録がなくなっている。これらの地域では環境の変化が感じられるだけでなく、周辺にある長野県の根羽村や売木村からも繁殖期の生息が確認されなくなっていることから、愛知県では繁殖絶滅と評価された。県内で春秋の渡りで見られる通過個体についても、確認できる場所が少なくなり、確認の機会も減少している。

### 【形態】

全長 23cm。雄は全身が黒色で、白色の太い眉斑がある。雌は全身暗褐色で、細い眉斑と喉は白色、下面には淡色の斑がある。

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

西三河北東部と東三河北部に位置する標高 1,000m 程度以上の山地で局地的に繁殖していた。春秋の渡りの季節には県内全域で確認されていたが、近年はかなり減少している。

#### 【国内の分布】

夏鳥として本州中部以北の山地に飛来する。特に本州中部の標高 700～1,500m の森林に多く飛来して繁殖するが、東北や北海道の平地でも繁殖する。

#### 【世界の分布】

シベリア中南部から中国北東部、サハリン、日本で繁殖し、冬期は中国南部、東南アジアで越冬する。



長野県下伊那郡根羽村, 2008年5月4日, 杉山時雄 撮影

### 【生息地の環境／生態的特性】

標高 1,000m 程度以上の広葉樹林や針広混交林に生息し、地上でミミズ、昆虫などを捕食するほか、樹上で木の実を食べる。茂みに覆われた樹枝上に、草の茎、枯れ枝でわん形の巣を作り、キョロンツリー、キョロンツリーと囀る。空が白々と明け始める頃から囀り始め、太陽が昇り切るとあまり囀らなくなる。春の渡りでは平野部でも囀りを聞くことがあり、特に標高 600m 程度の猿投山や 400m 程度の遠望峰山の山頂近くでは確認例が多い。秋の渡りで囀ることはほとんどなく、以前は低山で集合する群れが見られたり、平野部の河川沿いや都市公園で見られることも少なくなかったが、近年こうした姿を観察する機会も少なくなっている。

### 【現在の生息状況／減少の要因】

段戸裏谷、面の木峠、茶臼山の原生林や二次林が主な繁殖地であったが、2009年以降繁殖期の生息が確認されていない。繁殖期の記録がなくなった後も、段戸裏谷では秋の記録が 2 例ある。減少の要因は不明であるが、地球温暖化の他に観光開発による道路や施設などの整備、立入人口増加の影響は小さくないと思われる。外来種ソウシチョウ *Leiothrix lutea* は段戸裏谷で 2000 年、茶臼山では 2007 年に生息が確認されて以降増加して、現在ではこれらの環境に生息する野鳥の最優占種となっている。特に茶臼山では繁殖期に本種やアカハラが生息しなくなった時期と、ソウシチョウが生息するようになった時期が一致しているが、現時点でその影響は不明である。

### 【保全上の留意点】

県内に残る原生林を周辺の環境と共に保全し、原生林内外の沢や道路等の整備等を行う場合は環境に及ぼす影響を十分に考慮しなければならない。また原生林内への入山人口が増えていることから、必要に応じて立入禁止区域を設定するなどの措置を行って、野生生物の生息環境を保全することも必要である。

### 【関連文献】

五百澤日丸・山形則男・吉野俊幸, 2014. 新訂 日本の鳥 550 山野の鳥, p.244. 文一総合出版, 東京.

（高橋伸夫）